第１号議案　令和３年度事業報告の件

（令和３年４月１日～令和４年３月３１日）

【令和３年度を振り返って】

ウィズコロナの活動にチャレンジした1年でした

令和3年度は、2年度から引き続き新型コロナウイルス感染防止を意識したウィズコロナ体制での活動に終始した 1 年でした。変異株などが相次ぎ、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置期間を繰り返し、予測のつかない状態下での事業の企画や実施に頭を悩ませました。しかし、一昨年の経験から学習したことを、3 年度は十分に活かした活動をすることが出来ました。

今年から「お父さんお帰りなさいパーティー」の名前を変えてリニューアルした「地域デビューパーティー802」は開催直前まで感染者が減らず、リアル開催を決定したものの心配を抱えながらの開催となりましたが、これまでの経験を活かした感染予防対策を施し、また、オンライン（ZOOM）も併用することで、コロナ前と変わらない、あるいはそれ以上の参加者で賑やかに第1回目の「チデパ」を開催することが出来ました。やらない選択ではなく、どうすればやれるかを考える、そんな1年だったと思います。中止や延期だらけだったコロナ1年目とは数段に進歩した活動を行うことが出来たと思います。それでも緊急事態宣言やまん延防止対策重点措置の期間が長く続き、活動が制限されたのも事実です。通常総会も令和2年度同様書面審議となりました。新年交流会やシンポジウムも予定通りには行うことができませんでした。「いちょう祭り・わくわく広場」も開催を見合わせました。

しかしコロナ禍においても、地域活動や市民活動によって一人ひとりが充実感を感じ、それによって八王子地域が持続可能な活き生きとしたまちに発展することが、私たちの活動の目標であることに変わりはありません。「このような状況下でも」、「このような状況下だからこそ」、私たちに何ができるのかを考え、活動する市民のみなさん、団体のみなさんを元気づけ、支援できる活動をしていこうと、新しい時代の市民活動のカタチを実践することにチャレンジした年です。

オンラインをとりいれた新しいカタチへのチャレンジ

昨年に引き続き、協議会内部の会議はもちろん、外部との打合せにも積極的にZOOMなどのオンラインの手法を取り入れるとともに、リアルな対面開催との併用＝ハイブリッド形式にもチャレンジしました。

① 支援センター事業ではありますが、協議会がプロジェクトスタッフとして全面的に協力して開催する「はちおうじNPOフェスティバル」は密を避け長池公園での出店、スタジオイベントYouTube生配信と動画紹介を組み合わせた三元開催とすることで、リアル感も十分味わえるウィズコロナ時代の新しい形態のフェスティバルになりました。

②「地域デビューパーティー802」は先述のとおり原則会場での開催にしましたが、ZOOMをつかって生中継的に各団体を回り配信することによって、ZOOM参加者にもリアル感を感じてもらえる工夫をしました。

八王子市からの受託事業について

八王子市から管理運営を受託している市民活動支援センター（支援センター）の指定管理者契約を令和3年度から5年間継続契約して、令和3年4月より新入スタッフを4人加え、新たな気持ちで新規事業はもとより継続事業もバージョンアップで取り組みました。支援センターの指定管理者として、その管理運営を今まで以上に責任を持った体制で行うため、令和3年度は支援センター事業や運営の実際に、多くの協議会理事が参画しました。その結果協議会とセンターとの一体感、協力関係が増しました。

平成25年度から運営を八王子市から受託している「はちおうじ志民塾」は第13期の卒塾生17名を地域へと送

り出しました。コロナ禍で回数を例年より少なくしての開催でしたが、活発な塾生が多く入塾してくださいました。ZOOM併用の講座を設けましたが、毎回ほぼ全員の会場参加となりました。

自主事業について

令和3年度も交流、滞留を制限するコロナ感染対策で、市民活動には大きな制約がありました。いちょう祭りのF会場（わくわく広場）の運営は3年度もコロナ禍のために中止したことは残念でした。令和4年度は市民活動エリアであるF会場にもいちょう祭りの賑わいが戻ることを願います。

令和2年度まで24回（23回は中止）開催してきた「お父さんお帰りなさいパーティー」は令和3年度は「地域デビューパーティー802」として、市民の皆様の地域デビューの契機になるよう新たにリスタートしましたが、3年ぶりの対面開催に多くの方が来場しました。協議会はこの「地域デビューパーティー802」の実行委員会主体団体として、事務局を「オトパ」から引き続き担っています。女性・若者・シニア創業サポート事業ではセミナーのすべてをオンライン開催とするなど、やはりコロナ禍の影響をうけた活動になりましたが、オンラインで実施することにより夜間の開催も可能となり、これまで参加できなかった層にも参加の機会ができたことは新たな可能性を生みました。その他コロナ禍での制限はありましたが、地域、活動団体、市民の方々と連携するための交流会やシンポジウムなどを開催しました。

企業との連携

令和3年度も令和2年度に続き、明治安田生命保険相互会社と連携して、いただいた寄付を市内で活動する団体に助成金としてお渡しすることが出来ました。

八王子市民活動協議会は、コロナ禍でも地域の方々、各団体、行政、大学、企業等多くの関係者の方々と繋がり、連携して活動の場を広げることが出来ました。今後も継続して取り組んで参ります。

【１】八王子市民活動協議会の運営組織

１．理事会

①定例理事会：原則毎月第4火曜日午後5時から開催

協議会の運営についての重要事項について話し合いました。

②特別な審議事項や理事から開催要請があった場合に臨時理事会を開催します。

令和3年度は3回の臨時理事会を開催しました。

③ 理事研修会：例年は8月、12月に開催

令和3年度は会員増強について理事からアンケートをとりそれをもとにフリートーキングしました。また それをもとに会員にもアンケートを行うことにしました。

２．三役会

メンバーは理事長、副理事長、事務局長、各事業部会部長、支援センター長で構成。

基本的に理事会の２週前に開催し、理事会に付託する議案について討議しました。

３．企画運営会議

原則として四半期毎に開催し、支援センターの適正な運営やサービス機能向上を図ることを目的としています。特に市のモニタリングの結果が出た直後は、理事会の前に時間を設定して行いました。

４．情報セキュリティ委員会

本来年数回開催するべき当委員会ですが、令和3年度は開催機会もなく、協議会内の個人情報保護規定遵守の意識も鈍化していた状態であったと思います。そのような状況で残念ながら年度も終わる2月初旬に個人情報漏洩が起こってしまいました。

情報セキュリティ委員会の再編成、強化を行い、再発防止のため努めてまいります。

【２】支援センター事業

令和3年度も昨年同様、新型コロナウィルス感染症感染防止の措置を十分に考慮した、いわゆるウィズコロナのセンター運営となりました。東京都や市の対応に合わせ、センターでも時間、利用者数の制限、消毒等の感染防止対策を充分に行い、施設の運営、各事業の実施にあたってきました。

そのようななかで、コロナで活動に苦慮する市民や活動団体の支援になるような講座、イベントを多く取り入れ、令和2年度はコロナ初年のためブレーキがかかった分、今年度は例年よりも多い講座やイベントを実施して好評を得ることができました。もちろん、三密を避けるためにオンラインを多用した開催となりました。

ビジョン「私たち一人ひとりがつながって、夢をカタチにできる八王子」の実現を目指して、スタッフ一同「社会課題と市民・団体の力をつなぎ、市民が社会貢献活動に参加し、NPO・市民活動団体がチカラを発揮できるよう、さまざまな事業を通じ支援」するような業務にあたってきました。

１．市民活動の促進のための施設の提供に関する事業

（１）施設利用状況

交流室	活性化室	フリースペース	コピー機	印刷機	面談相談	来所他	電話相談	電話他	メール相談
685	606	624	126	72	122	150	42	1207	1
544	518	0	75	32	122	328	42	1207	0

上段：令和３年度、 下段：令和２年度

昨年度に引き続き、当年度初めより新型コロナ感染症予防対策を考慮して、会議室やセンター利用に制限がありました。またフリースペースは6月下旬まで閉鎖状態の対応となりました。

また昨年度に引き続き、来場者の体温測定、消毒、および利用後の会議室の消毒を行い、利用同意書を義務付け利用者の履歴がわかるように管理しました。

経過

・令和3年4月26日まで　会議室利用20:00まで　定員9名、
フリースペース利用不可、コピー・印刷利用可

・4月27日より5月31日まで　会議室利用不可
フリースペース利用不可、コピー・印刷利用可

・6月1日より6月21日まで　会議室利用20:00まで　定員9名
フリースペース利用不可、コピー・印刷利用可

・6月22日より11月30日まで　会議室利用20:00まで　定員18人
フリースペース利用可
・12月1日より令和4年3月31日現在　会議室利用21:00まで　定員18名
フリースペース利用可　コピー・印刷利用可（通常どおり）

（２）市民活動を支援する環境づくり

年度初めの4月～5月には会議室利用が不可になるなど、昨年に引き続きセンター利用制限が多くありましたが、6月下旬からはフリースペースの利用も可能になり、会議室の定員も18名に戻りました。
それに伴いセンター来訪者、利用者の満足度向上のために、センター内のレイアウトや掲示などに工夫をこらして、市民活動を支援するにふさわしい環境づくりに努めました。

・センター内のチラシラックを整理し、わかり易い配置にしました。
・フリースペースが集いやすい空間となるように、明るい雰囲気づくりに努めました。
・パーテーションパネルを活用して、団体の紹介やイベントの紹介、センターニュースなど、タイムリーな発信をすることが出来ました。
・掲示に工夫を凝らして、親しみやすいセンターを印象付けるとともに、適切な情報を得られる掲示配置に努めました。

【課題と評価】

昨年度は年間とおして感染者の増加、高止まりが続いたため、会議室の利用も例年には及ばず、使用率は約5割～6割での推移でした。このような中でも来所する市民に対しては感染防止を重視しつつ丁寧な対応を心掛け、利用者満足度アンケートでは**99％超の満足度**を得ました。特に令和2年度からずっと使用禁止としていたフリースペースの利用再開にともない、様々なレイアウト、展示の工夫を実施して、利用者にも親しみやすいセンターを印象づけることが出来ました。

2. 市民活動を行う者、市民、事業者、市及び地域の相互の連携並びに交流の促進に関する事業（地域・団体連携交流事業）

（１）はちおうじ NPO フェスティバル２０２１

・日時：令和3年10月31日（日）　11:00～15:30
・場所：長池公園芝生広場　長池公園自然館　YouTube チャンネル

コロナ2年目の令和3年度の NPO フェスティバルは、三密を避けるために長池公園芝生広場での出店（展示・体験・物販）と同長池公園自然館からのスタジオイベント YouTube 生配信、YouTube チャンネルでの団体紹介動画配信の3本立てで開催しました。司会は2年度と同じ、ユーチューバーの中野智行さんとレインボーズの宮城あかしさんにお願いし、約40もの市民団体が参加しました。

【課題と評価】

コロナ禍のため完全オンライン＝YouTube ライブ配信で行った令和2年度でしたが、令和3年度は今できる範囲でできるだけこれまでと同じリアルな開催にならないかと考えた結果、密にならない広い公園の芝生広場でのテント出店、YouTube ライブ、YouTube チャンネルと多元的な開催となった。あいにく当日が悪天候のため芝生広場のテント出店は集客が良くなかったが、2年ぶりの対面開催に参加団体からも好評をいただきました。

（２）NPO はちおうじ会議

テーマ：「コロナ時代の共生社会実現のための連携」

・日時：２０２２年３月２７日　完全オンライン（ZOOM）での実施
・参加者：２２名＋スタッフ５名＋松原明（講師、総評）
・講演「共生社会における連携のための相利」松原明さん
・**グループワーク**：「コロナ時代に求められる新たな連携」
（ブレイクアウトルーム）4グループに分かれる（5人から6人）
★「私たちが連携・協働すると、どんな新しい活動が生まれるか」を話してもらいました。
ウィズコロナ・ポストコロナの時代に求められる新たな連携を前提に、グループに参加した者のそれぞれの活動を協働することにより、自分たちが目指すことを達成する新たな活動を生み出せないか、のアイディア出しを行いました。

【課題と評価】
2021年度の NPO 八王子会議（第8回）は、当初コロナ時代の市民活動をどう展開するか、という前提のもと、自分（自団体）が行いたい活動や事業をピッチ形式でプレゼンテーションしてもらい、他の参加者から助言や連携、支援を引き出し、新たな連携・協働を生み出す場となるようにと企画しました。
しかし、開催直前の1月21日から「まん延防止等重点措置」が適用され、それへの配慮によりいったん延期としました。この企画を効果あるものにするには、ZOOM などのオンラインでは当初の目的が達成しにくいと判断したためです。
当初の企画は来年度に行うこととし、完全オンライン（ZOOM）で行う今年度の NPO 会議は、その準備的なものとしてプチアイディアソンを取り入れることとしました。多様性を持った、しかも初めて会うメンバー同士でディスカッションを行うことで、それまでになかった連携や新しいアイディアが見つかることを期待できます。
そこで生まれたアイディアをもとに、次回の NPO 八王子会議での提案（ピッチ型スピーチ）につなげることもねらいです。

（３）交流会

協働の場づくりのための市民活動団体の交流会は、団体同士の横の連携だけでなく、行政や公共的性質を持った組織にも呼び掛け、興味のある市民も募り、テーマ別・分野別等の様々な視点から開催しました。

時期	テーマ・内容	参加者	会場	担当
8 月 9 日	中高生によるグループディスカッション 私たちが考える「八王子の未来」	12 名	学園都市センター ギャラリーホール	力石
11 月 20 日	学生と地域とのつながり 「SDGs ゲームでまちづくりを体験」	25 名	子安市民センター 第 1・第 2 会議室	力石
12 月 5 日	国際分野の交流会 「コミュニケーションの壁・やさしい日本語」	39 名	労政会館　ホール	力石
2 月 27 日	メタバース体験交流会	14 名	オンライン（7 名） センター会議室（7 名）	浜野
3 月 21 日	生きづらさを感じる若者の支援者向け交流会	15 名	オンライン（Zoom） センター会議室	力石

【課題と評価】
◆私たちが考える「八王子の未来」令和３年８月９日実施

中高生１２名が参加。学年が近い４つのグループに分かれ、各グループで「八王子の良さ」、「気になる点」、「どんな八王子になってほしいか」、「行政への要望」、「未来への提言」について話し合い、プレゼンテーションしました。学生ならではの発言も多々あり、若い世代の市民参加意識を知ることが出来てとても有意義な時間となりました。参加者・保護者・オブザーバーとして来ていただいた先生方などに高評価をいただき、参加した学生全員が「機会があったら、市民活動・地域活動に参加したい」「参加して、良かった」と回答し、開催した意義があったと評価しています。保護者数名からも今後も是非声をかけてほしいと言われ、今後も若い世代にも市民活動に興味をもってもらえる交流会を実施していきたいと思います。

◆「学生と地域とのつながり」令和３年１１月２０日実施

学生にまちづくり・市民活動に興味を持ってもらい、今後センターとつながって協働していくきっかけづくりとして企画し、呼びかけましたが、いちょう祭り・商工会のイベントや大学の入試と重なり、参加者集めがとても厳しい状況でした。大人も参加できるようにし、最終的には参加者は２５名となりました（学生１０名・大人１５名）。

・SDGｓカードゲームが面白く、横山さんのファシリテーションも素晴らしく、参加者の９３％に高評価を頂きました。また、参加者の中で、支援センターを知っていたのは４０％で、「聞いたことがある」２０％、「知らなかった」４０％の方に、センターのことを知ってもらうきっかけとなりました。事後アンケートでは回答者全員は市民活動に興味を持ったとの回答でした（「是非参加したい」３３％、「機会があれば参加したい」６７％）。

◆「コミュニケーションの壁（国際分野）」令和３年１２月５日実施

・八王子国際協会に協力をいただき、第１部：「コミュニケーションの壁」についてのグループディスカッションと、第２部：「やさしい日本語」のワークショップの２部構成で実施しました。国際分野で活動している団体や個人の方・外国にルーツを持つ方々と一般市民に募集をかけたところ、すぐに定員を超えました。当日までキャンセル４名があったにも関わらず、参加者３９名＋スタッフで高い参加率となりました。外国にルーツを持つ方１３名・団体の方１７名・大学関係・個人ボランティア又は一般の方９名とバランスよく、各テーブルで意見交換がスムーズにでき、時間が足りず延長することになりました。各テーブルの発表も興味深く参考になりました。後半にやさしい日本語の入門講座が行われ、カタカナと漢字のカードゲームを使って体験することができました。参加者から高評価をいただき、「もっとやってほしい」「コミュニケーションの壁や取り方について考えさせられた」「つながりができた」などのコメントを頂きました。

◆メタバース体験交流会　令和４年２月２７日実施

最新コミュニケーションツールであるバーチャルリアリティーを紹介し、メタバース（バーチャルリアリティー）空間で交流することを体験してもらいました。初体験の方がほとんどで、アバター設定、バーチャルリアリティーを体験しながら、参加者同士で話したり、プレゼンを体験したり、空間移動したりして、交流を楽しんでいただきました。コロナ禍の新しい活動ツールとして、今後の活動に活かせるように期待しています。

◆生きづらさを感じる若者の支援者向け交流会　令和４年３月２１日実施

完全オンラインで開催しました。生きづらさを抱える方の支援団体、フリースクール関係者、ひきこもりの方の支援団体、障害者と保護者を支援している方、繊細な女性の居場所づくりを提供している団体とお子様を亡くした方に加え、この問題についてもっと知りたい市民の方が参加いただき、参加者１０名、スタッフ４名、講師１名、合計１５名となりました。

第１部でユースソーシャルワーカーの阿部慶子氏は選択理論を紹介し、「とても参考になった」、「すぐに活

用したい」「もっと勉強したい」など高い評価をいただきました。
第２部のグループディスカッションでは少し時間が足りなかったことが残念でしたが、横のつながりが誕生し、これからもコミュニケーションをとりながら、協働できることを考える契機になりました。この分野で初めてかつ繊細な分野であるため効果としてはもう一歩でしたが、関係性づくりで貢献できた交流会であったと思います。

３．市民活動に係る情報の収集及び提供に関する事業

（1）広報紙「SUPPORT802」について

本年度制作した広報紙の概要は以下の通りです。

発行号数	発行日	特集記事【取材団体】	発行部数
第 102 号	令和３年５月	紙芝居は、演じるのも楽しい！ ～わくわくする紙芝居の世界へようこそ！～	5,000 部
第 103 号	令和３年７月	「八王子のルーツは、滝山城下にあり」	5,000 部
第 104 号	令和３年９月	災害ボランティア活動に学ぶ防災 ～IVUSA の学生災害ボランティア活動から見えてきたもの～	5,000 部
第 105 号	令和 3 年 11 月	脳障がいとともに歩む方たちへエールを ～マルベリー東京パイロットクラブの 2 つの「柱」～	5,000 部
第 106 号	令和４年１月	市民活動の「すそ野」を広げる！ ～多様なパートナーシップを生む、支援センターの取り組み～	5,000 部
第 107 号	令和４年３月	八王子でつながる二人の偉人（前編） 肥沼信次博士～ドイツで語り継がれる日本人医師～	5,000 部

主な配布先：センター登録団体、協議会会員、八王子市関係所管、市内公共施設、市内主な広報スタンド、中間支援団体、市内 NPO 団体、配布希望町会・自治会、配布希望大学、その他（八王子センター元気、八王子レクリィエーション協会、紙面掲載団体）
令和3年度はひきつづきコロナ禍ではありましたが、感染症流行拡大の合間を縫って、また、感染症蔓延防止の対策をとりながら、復活の兆しをみせ始めた市民活動を広報紙で取り上げることで、さまざまな市民活動団体の情報共有や活動の後押しにもなりました。
第98号から団体の活動の様子を QR コードで紹介したことが高評を得て、99号から毎回団体の活動やイベントの様子、団体に興味を持ってもらうようにクイズ形式のショートストーリーなど、メディアを活用した掲載が可能となり、情報にボリュームがでました。
また、助成金情報やイベント情報も QR コードを取り入れて、「はちコミねっと」の各ページにリンクすることで、利用者にとって情報の入手が容易になりました。
【課題と評価】
広報紙は広報スタッフ4名（うちサポートライター1名）で取材・編集を行っています。役割分担が明確化してきたこともあり、全体の作業の流れがスピーディになってきました。紙面作成で、団体の「想い」をどこまで反映さ

せるべきか、全体の構成に関わるような指摘を受けたときのすり合わせが今後の課題であると考えます。

(2)メールマガジン「SUPPORT802 だより」

本年度発信したメールマガジンは以下の通りです。

号数	配信日	主な内容
No.147	2021/04/01	*巻頭言:市民活動と「学び」 *緊急事態宣言に伴う八王子市市民活動支援センターのご利用について　ほか
No.148	2021/05/02	*巻頭言:緊急事態宣言下でのすごしかた *緊急事態宣言に伴う八王子市市民活動支援センターのご利用について　ほか
No.149	2021/06/04	*巻頭言:「世界環境デー」について ＊ 支援講座「はじめてのZoom　超！初心者向け講座」 ＊ 超初心者向けフェイスブック活用講座　ほか
No.150	2021/07/02	*巻頭言:　アクティブ市民塾とリンクした SUPPORT802 第 103 号の紹介～映像資料とリンク ＊ 交流会「中高生によるグループディスカッション」 ほか
No.151	2021/08/06	*巻頭言:コロナ禍で迎えたオリンピック大会、酷暑の影響や自然災害のニュースが 多くなる時期の過ごし方など日々雑感 ＊「NPO パワーアップ講座」全 6 回　*はちおうじNPOフェスティバル 2021　ほか
No.152	2021/09/03	*巻頭言「2020 東京パラリンピックからパラスポーツ紹介」 *「はちおうじYouTuber から学ぶオンラインでまちおこし」 ほか
No.153	2021/10/01	*巻頭言:日常生活のなかで身近になった YouTube について *アクティブ市民塾「八王子ウオーキング協会ワンステップと歩く秋のウォーキング」 *「学生のための SDGs de まちづくり」 ほか
No.154	2021/11/01	*巻頭言:「はちおうじ NPO フェスティバル」終了 年末に向けた日常の過ごし方、雑感 *「学生のための SDGs de まちづくり」のご案内　ほか
No.155	2021/12/02	*巻頭言:コロナ禍における 1 年のふりかえり ＊ 市民活動活性化のためのフェイスブック入門講座
No.156	2022/01/08	*巻頭言:今年の社会の予定 (冬季オリンピック開催、サッカーW、年齢の引き下げ等)と市民活動 *アクティブ市民塾 「一つ屋根の下お互いを支えながらより良い社会を目指す団体を訪ねよう」のご案内
No.157	2022/02/04	*巻頭言:「変わりゆくもの変わらないもの」 ＊NPO パワーアップ講座　全6回(2021 年 8 月～2022 年 3 月)のご案内 ＊ 市民活動や地域活動でサクサク活用するためのメタバース体験交流会
No.158	2022/03/14	*巻頭言:　カメラがつなぐ 2 国の心のふれあい *「第 8 回 NPO 会議」のご案内 *「生きづらさを感じる若者の支援者向け交流会」のご案内　ほか

【評価と課題】

メールマガジンの巻頭言は時季を反映したものを中心に、字数および内容をコンパクト化しました。広報紙だけでなくメールマガジンでも啓発事業とリンクした内容を特集すると、参加申し込みが増える傾向にあり、事業宣伝への活用は今後増やしていきたいと考えます。センター利用者からメルマガへの感想も寄せられることもあり、読者は固定化しつつありますが、今後は読者をどう広げていくか、情報手段として知名度を上げていきたいと考えます。

(3)SNS の活用

広報紙「SUPPORT802」、メールマガジンのほかに充実を図っていきたいのが Facebook、ツイッターなどの SNS です。センター内の掲示についても、利用者に来所の楽しみと同時に中間支援組織として有意義な情報を得られる施設づくりを図っていきたいと考えます。

(4)八王子コミュニティ活動応援サイト「はちコミねっと」の登録・保守および活性化

①「はちコミねっと」団体登録数(センター登録数) 445 団体(2021/4)→474 団体(2022/3)

令和3年度の新規登録団体 37団体

年間登録抹消団体 8団体

②団体向け「はちコミねっと」操作方法 月別講習会 22団体(参加人数27人)

個別講習会 15団体(参加人数18名)

③ 助成金情報 146件

講座情報 118件

イベント情報 189件

仲間募集 16件

活動レポート 303件

令和4年度は「はちコミねっと」が新システムに移行します。そのため、3年度は年間を通じて1年以上団体更新をしていない団体へ、団体情報更新のおすすめをしてきました。引き続き行います。

(5)支援センターWeb サイト

①ホームページの改善

しばらく見直していなかったホームページをスタッフ全員で見直し、改善点を洗い出し見やすく使いやすいホームページに改善しました。

②Twitter、Facebook などの SNS のツイート数やアクセス数など、年間を通して分析しました。

(6)東京ボランティアレガシーネットワークに今年度加盟登録し、八王子市市民活動支援センターの情報を発信しました。

(7)職場内 ICT 環境の整備

今年度新しい PC を導入したことを機に、職場の ICT 環境を見直しました。

市のデジタル推進課から送られてくセキュリティ情報をもとに、改善を試みました。

【課題と評価】

今年度は団体の登録が例年になく非常に多数になりました。いろいろな場面でこまめに声掛けをした成果が出ました。

「はちコミねっと」の講習会や個別講習も参加者が増えました。毎月チラシを作ってお知らせしたことと、直接お声がけした成果だと思います。来年度は「はちコミねっと」のシステム移行があります。その移行に向けて、団体情報更新のお願いに力をいれたことも功を奏しました。

ホームページの改善はまだ途中段階ではありますがだいぶ見やすく使いやすくなりました。今後さらに見やすく使いやすいホームページに改善予定です。

４．市民活動に係る啓発及び人材育成に関する事業

今年度も団体活動のステップアップを狙ったパワーアップ講座や支援講座、市民の方に団体が取り組む市民活動を知っていただくためのアクティブ市民塾など、多角的に市民活動を周知するためのプログラムを実施しました。

(1)　パワーアップ講座　〈７回〉　各１５団体

◆　方針：市民活動団体がスキルアップする連続的な講座を行ないます。また、参加団体同士の交流の場となるような開催形式とします。

◆　実績：下記内容で全7回の開催が完了しました。

No.	開催日	テーマ［サブテーマ］	講師	会場	参加者
1	2021/8/20	居心地の良い組織の作り方［組織で活動する意義、目的の共有］	長田英史	※1 視聴覚室	9 組 15 名
2	9/17	活動の推進、課題解決［会議のやり方］	同上	※1　第 2 学習室	10 組 14 名
3	11/12	市民活動団体の会計［会計管理のポイント、会計報告の重要性］	脇坂誠也	※1 同上	11 組 20 名
4	11/26	市民活動団体の会計［フォローアップ講座　--　追加講座］	YouTube 視聴	支援センター	3 名
5	12/10	市民活動団体の資金調達［活動資金の安定化、ファンドレイジング］	徳永洋子	※1　第 2 学習室	11 組 19 名
6	2022/2/18	助成金申請書の書き方［助成金の仕組み、助成金申請のポイント］	小堀悠	※1　第 2 学習室	13 組 23 名
7	3/4	広報と地域メディアの活用［パネルディスカッション方式で開催］	大久保賢一	※1 視聴覚室	15 組 25 名

※1：クリエイトホール

【課題と評価】

どの講座も、参加された方から「大変参考になった、教わったことを活用したい。」といった前向きな御意見をいただけました。講師の先生方が、活動に役立つ具体的なアドバイスを豊富に紹介してくださったことが有益でした。未受講の市民活動団体には、ぜひ令和4年度での受講を希望します。

（２）アクティブ市民塾〈6回〉 各10名～40名 （オンライン併用で開催の回も有り）

◆　市民活動団体が講師となり、実演等も交えながら活動紹介します。参加した市民同士の交流の場ともなりました。

◆　実績：下記内容で全6回の開催が完了しました。

No.	開催日	テーマ	講師	会場	参加者
1	2021/7/25	滝山城・城攻め体感	NPO 滝山城跡群・自然と歴史を守る会	都立滝山公園	17 組 42 名
2	9/26	戦争遺跡 浅川地下壕　見学会	浅川地下壕の保存をすすめる会	浅川地下壕	12 組 20 名

3	10/14	誰もが生き甲斐を持ち 楽しく暮らせるように	NPO 法人 しあわせのたね	たねカフェ、 ちいさなたね	4 名
4	11/14	いちょう並木と旧甲州街道を歩くウォーキング	八王子ウオーキング協会ワンステップ	西八王子駅～ 高尾駅	14 名
5	2022/ 1/21	ひとつ屋根の下でお互いを支えながら より良い社会を目指す団体を訪ねよう	NPO 法人こすもす・こすもすだれでも食堂・エコショップ元気広場	カフェこすもす エコショップ元気広場	6 名
6	3/13	ドイツで感染症と闘った八王子の Dr.肥沼の偉業を知ろう	Dr.肥沼の偉業を 後世に伝える会	まち・なか ギャラリーホール	41名

【課題と評価】

参加者が比較的多い講座でも、講座への満足度が高い結果を得られました。これは、どの団体も活動を紹介するスタイルがあったこと、そして八王子市民にとって、八王子の文化、歴史、偉人などについて学べる講座のニーズが高かったためと思われます。

また、福祉(障害者支援)と地域での居場所づくりで一生懸命活動している団体を、より多くの方々に知ってもらう・関心を持ってもらうために紹介させていただきました。活動内容やコロナ禍もあり、多人数で参加することができませんでしたが、参加いただいた皆様からは高い評価をいただき、アクティブ市民塾を機に団体のお手伝いをするようになった方もいます。また、「紹介されたことで、活動に活気がでた」「チラシをみて、訪ねて来た方がいる」と団体から連絡をいただき、紹介させていただいて良かったと思いました。次年度も市内で活動する多様な分野の市民活動団体を紹介したいと思います。

（３）支援講座 〈8回〉 各7名～25名 オンライン併用

◆ 方針: NPOや市民活動団体向けに、市民活動の支援となる講座を行ないます。

◆ 実績: 下記内容で全8回の開催が完了しました。

No.	開催日	テーマ	講師	会場	参加者
1	2021/6/12	ショートムービー作成講座-1	山口亜希子	クリエイトホール	21 名
2	6/25	はじめての ZOOM	梅澤朗広	支援センター	12 名
3	7/17	フェイスブックで輝きましょう	スタッフ	支援センター	9 名
4	8/26	ZOOM 活用講座 第 2 弾	梅澤朗広	支援センター	7 名
5	8/29	ショートムービー作成講座-2	山口亜希子	クリエイトホール	26 名
6	10/22	はじめての ZOOM 第 3 弾	スタッフ	支援センター	8 名
7	12/22	FaceBook 入門講座	スタッフ	支援センター	7＋7 名
8	2022/1/28	ZOOM 活用講座 第 4 弾	スタッフ	支援センター	4 名

【課題と評価】

令和3年度、ZOOM 講座は4回開催しました。コロナ禍でオンラインを用いた会議や集会の機会が増大し、講座のニーズも非常に高いものになりました。初級から中級と毎回希望者が多く抽選となる人気講座となりま

した。令和4年度はさらに高度な上級編も企画して、ウィズコロナ時代の市民活動に寄与する講座として定着するよう努力します。加えて、インターネット関係、情報発信、コミュニケーションツールを紹介する講座を多く行いましたが動画作成やフェイスブック活用よりも、受講いただいた皆さまのパソコン・スマホ活用スキルの差が目立ちました。工夫し、より多くの方のお役に立つようにしたいと思います

４．実践講座 〈1回〉 40名

◆ 方針：市民向けに、NPOや市民活動の普及や啓発となるような講座を行ないます。

◆ 実績：下記内容で開催が完了しました。

No.	開催日	テーマ	講師	会場	参加者	担当
1	2021/10/9	はちおうじYouTuberから学ぶ オンラインでまちおこし	中野智行	学園都市センター ギャラリーホール	24 名	浜野

【課題と評価】

数年前より八王子まちおこしのために八王子の食べ歩きを動画で紹介して実績を上げているYouTuber中野氏を講師として依頼した本講座は、これまでに当センターとつながりのなかった市民を呼び込み、より広い意味での市民の地域への愛着や社会貢献意識、そしてシビックプライドを増進させた講座になりました。

また、この講座の記録はYouTubeで公開し、当日参加しなかった市民も視聴することができるようにし、コロナ禍での対面が困難と感じる市民へ手軽に事業に触れられるように工夫しました。

５．ゆめおりファンド事業

(1)団体情報開示支援

1．ゆめおりファンド認証団体・登録団体－1

◆八王子市内でCANPAN★★★、★★★★を取得している団体を中心にゆめおりファンドの紹介と登録依頼のため訪問し、登録を依頼しました。ゆめおりファンドの主旨に賛同いただいた3団体に認証団体として登録いただくと共に、スタートアップ3団体の登録も加え、今年度は新たに7団体に新規登録いただきました。

これにより、八王子市内のCANPAN登録団体149団体中、ゆめおりファンド登録団体は約43%となりました。中でも八王子~~市~~市内のCANPAN★★★以上の13団体のうち約72%がゆめおりファンド認証団体として登録済みです

2．ゆめおりファンド認証団体・登録団体－2

◆ゆめおりファンドの登録団体数は昨年度から7団体増え、65団体となりました。

◆全体数は増えつつありますが、認証団体は23%、参加団体は77%となっています。

3．「ゆめおりファンド認証盾」贈呈

新たに認証団体として登録した特定認定NPO法人　ゆぎの里、社会福祉法人　いきいき福祉会（NPO法人フードバンクTAMAは別途贈呈）に「ゆめおりファンド認証盾」を指定管理者NPO法人八王子市民活動協議会理事長より贈呈しました。

その他の贈呈対象団体は、上記3団体に加え蕗の会、チャイルドライフ、八王子いちょうの会、スペシャルオリンピックス日本・東京、八王子市民活動協議会、筋無力症患者会、八王子共生社会推進会議、難病ネットワーク、フードバンク八王子えがお、なみき福祉会、ボーイスカウト八王子第12団（除く、多

摩草むらの会）の計 14 団体です。

4. 課題と今後の進め方

◆参加団体は毎年増加しつつありますが、CANPAN★★★以上の認証団体の比率が低いことと CANPAN★、★★団体の多くが団体情報を更新していないことが課題です。そこで、ここ数年間「CANPAN 登録・更新説明会」を開催してきましたが参加団体は微々たるものでした。地域社会からの信用・信頼を得る上で情報開示は必要と考え、今後も CANPAN★★★化も含め更新支援を継続いたします。

◆また、「はちコミねっと」新規登録団体向けにゆめおりファンドの紹介と登録依頼、CANPAN 登録支援を行うため情報事業部門との連携を図ります。

◆ゆめおりファンド事業は発足十余年を経過しています。そこで、今までに物品支援、人財支援が運営基盤強化や活動継続にどの程度役に立ったのか調査し、フィードバックを更なる改善のヒントとするためのアンケートを行いたい。併せて、地域課題の変化やスタッフの高齢化、更には新型コロナなどが団体活動に及ぼした影響について調査したいと考えます。

（2）物品の支援

1. 寄付・提供実績（件数）

◆新型コロナ禍の中、企業様、個人からの寄付件数は直近1,2年の3倍の16件と増加しました。団体活動も自粛気味と予測しましたが、スタートアップ団体への提供件数も直近の2、3倍の34件と増加しました。With コロナ禍での団体活動再開の兆しであればと願うばかりです。

2. 寄付・提供物品数量（参考）

◆寄付・提供物品数量はおおよそ次の通りです。

（物品によりカウントの方法はまちまちです。箱、鉛筆1本、1ダース、用紙枚数、ケース入り等も「1」の場合もあります）

3. 寄付物品～16 件～

◆寄付物品の概要

作業・安全	557	ヘルメット、緊急用毛布
ノート・紙製品	126	コピー用紙、白地厚紙、のし紙
筆記具	111	シャーボ、マッキー、マジックインク、
事務用品・文具	98	スクリーン、ホワイトボード、２穴パンチ、ホッチキス、裁断機、鉛筆削り、各種トレー
チェア	83	OA椅子、スタッキングチェア
テーブル	29	丸テーブル、四角テーブル
掃除洗濯用品雨具等	26	ゴミ箱（傘、石鹸）
インテリア	14	丸時計、ハンガー
収納家具・用品	13	ロッカー、書架、書庫、
PCアクセサリー	8	（各種ケーブル）
デスク	7	片袖デスク
家電	3	テレビ、DVDレコーダ
ファイル	多数	リングファイル、クリヤホルダー、パイプ式ファイル、
その他	65	ネッククーラー、食器、紅白幕、下着
その他・食品	-	お米550KG、佃煮500、うまい棒11

◆コーユーレンティア株式会社様の紹介で西松建設株式会社、パーキングソリューション株式会社から寄付を頂いたほか、立川市の某企業、東京薬科大学、東京都環境公社、映像802、八王子市民活動協議会、協同組合 EMS、一般市民からデスク、チェア、テーブル等事務室什器、壁掛け時計、ハンガー等インテリア、書架、書庫、ロッカー等収納家具・用品、大型スクリーン、ホワイトボード、2穴パンチ、ホッチキス、レターケース等事務用品、ダブルクリップ、ゼムクリップ、ゴムバンド、伝票、定規、コンパス、鉛筆削り等文房具、マジックインキ、ホワイトボードマーカー、シャーボ、鉛筆等筆記具、コピー用紙、マルチペーパー等ノート・紙製品、リングファイル、フラットファイル、クリヤーファイル、ファイルホルダー等ファイル類多数寄付いただきました。

又、市内某企業から社会貢献したいとの想いと共に子供用ヘルメットを沢山ご寄付いただきました。

更には生活協同組合パルシステム東京からの緊急支援「お米」を斡旋しました。三六商店からは佃煮を寄付いただきました。個人様から寒空で困っている方にと下着を寄付いただきました。

◆このように、2021年は物品だけでなく、食品、衣料品なども寄付いただきました。

◆これら以外に3つの企業様から寄付の問合せをいただき、「ゆめおりファンド」のプレゼンを行いました。

5)活用報告

◆2020年度にコーユーレンティア様の紹介で寄付いただいた西松建設、都内某企業、2021年度にヘルメットを寄付いただいた八王子市内の企業、「お米」を寄付いただいた生活協同組合パルシステム東京、立川市の某企業に対して、寄付品の活用状況をまとめ報告の予定です。

(3)人財支援(プロボノ)

6年目となった人財支援事業は、今までの基本的なプロボノを推進する方針にとって、 逆風の年になりました。

一つには、サービスグラントの指導を受けてプロボノを始めた府中市の「ちょこっとプロボノ」でも、従来型の堅苦しさを感じさせないイメージのうえ、11団体を完了させていますが、7団体は報酬を出しています。(サービスグラントのプロモーションビデオでも有償を否定していません)

もう一つは、八王子市福祉部の「地域の人材 縁×結び プロジェクト」の本格展開です。タイトル自体の文言には入っていませんが、主導するサービスグラントの説明は「プロボノ」そのものです。一年前に同法人が開設したプロボノのポータルサイト「GRANT」コーディネート登録33団体中、市民活動支援センターの「プロボノ@八王子」に続いて八王子市内の高齢者あんしん相談センター3つも参加しました。同一行政市(区)内で複数の参加は八王子だけです。福祉部の志向は、団体力を向上させることよりも介護予防や孤立化防止にあり、継続したお手伝いや謝金をも厭わない広義の展開をしています。懸念材料としては、志しのあるワーカーが目移りしないか、団体がプロボノを一つのステップとして地力を付けようとするのではなく、ワーカー(下請け)依存度を強めないか、の2点です。このような背景にありながら、以下の通り4件の実績を上げることができました。

1)中期プロボノ・随時プロボノ

① 認定NPO法人CES「グループウェアの選定」(ワーカー:児島さん。3/18～6/1 全8回)従来、個々人で業務情報のやり取りしていたものを、3事業所で共有し効率的な活動を展開できるようなグループウェアがないかとの要望に応えて実施しました。サイボウズなど複数のツールを現場の人にも見て頂きながら、LINE__WORKSが適しているとの結論になりました。なお、コロナ禍のため、オンライン・対面を取り交ぜて実施しました。

② エコショップ元気広場「団体Face_Bookの充実」(ワーカー:小林ヒロカズさん 8/2)既に団体としてFacebook を開設してあったものの、閲覧数も少ない状態でした。コロナ禍におけるSNSの有効性を感じて、改善策のアドバイスを求められました。サービスグラントのポータルサイトを利用し小林ヒロカズさんの協力を得て、事前の準備はありましたが、オンラインの一日だけで完了しました。その後の団体は格段に活用度が向上しました。

③ 認定NPO法人CESⅡ「グループウェア導入」(ワーカー:児島さん。6/16～11/10全7回)前回はどのグループウェアが適しているか比較検討した段階での結論でしたが、実際に展開・活用してこそ意味があり、そのためには団体だけで成し遂げることは困難とのことで異例でしたが、第二弾を実施し、完了後の活発な活用につなげることができました。この期間もオンライン(ハイブリッド)を中心に、可能な日は

対面での活動になりました。

④ 元本郷お助け隊「ちらし作成支援」(ワーカー:鈴木佐登美さん。11/16・28 全2回)
先述の福祉部による活動から、高齢者あんしん相談センター追分が受けた相談を引き継いで実施しました。センタースタッフが業務外にワーカー登録して、プロボノ体験の場にもなりました。単なるチラシ作りのノウハウに留まらず、利用者目線など市民活動に欠かせない視点を理解して頂き、今後に活かせる機会となりました。

■その他の人財支援活動

4 月 13 日　高齢者いきいき課(辻野主査・山田さん)を訪問しプロボノ説明
4 月 21 日　高齢者あんしん相談センター南大沢(青山さん他)でプロボノ説明
5 月 16 日　志民塾 OB 会 Zoom ワンテーマサロンでプロボノワーカーについて説明
7 月 16 日　高齢者あんしん相談センター南大沢での福祉部説明会を傍聴
7 月 24 日　府中プラッツ・プロボノ中間 Zoom 報告会傍聴
7 月 26 日　東京工科大(千種さん・日比野さん・学生)オンラインでプロボノ PV 作成
7 月 28 日　協働推進課(長尾主査)と福祉部との関係打合せ
8 月 3 日　学園都市センターで開催された福祉部のプロボノ説明会傍聴
1 月 8日　志民塾でファンド事業(プロボノ)説明
2 月 18 日　高齢者あんしん相談センター由木東訪問(蛯子さん)からプロボノ相談
3 月 4日　今秋計画のプロボノ説明会講師予定の石山先生と Zoom 打合せ
3 月 5日　川崎プロボノ部 zoom 報告会傍聴
3 月 17 日　川崎プロボノ(吉田さん・廣岡さん・岩田さん)と zoom 打合せ

５．調査研究活動

社会環境の課題やＮＰＯ、市民活動の実態把握が大変重要であり、スタッフが外部イベントや講習会等へ参加しスタッフのレベルアップに努めました。

また、今年度も団体ニーズ調査を７月～８月に施設利用満足度調査を１２月～２月に行いました。結果は支援センターホームページに公開しております。概して団体ニーズ調査では団体が活動するうえでの課題などが明らかになり、また利用満足度調査では非常に高い満足度をいただきました。今後のセンター運営に役立ててまいります。

【課題と評価】

利用満足度調査の結果は、「満足」、「やや満足」で９９％となり、引き続き高評価をいただきました。自由記述ではスタッフの対応が良い、センターの雰囲気が明るくなった、センター内のレイアウトが良くなったなど、コロナ禍ではあるもののセンターを利用する方々に気持ちよく利用してもらおうとの努力が認められた形となり、スタッフのこれからの励みにもなりました。

６．市民活動に係る相談に関する事業

(1)相談対応及び専門相談

支援センター業務の大きな柱である相談業務は、相談者に寄り添い、受け止めるという基本的な考え方で対応しています。相談は1回で終わりにせず、いわばリピーターとして何度も来ていただき、さまざまな視点からの助言

と提案を心掛けて対応しました。
　専門相談は NPO 経営支援アドバイザー派遣制度の活用やNPO法人との提携により、経理、労務、税務等の相談に対応しています。
【課題と評価】
本年度も、NPO 法人設立、NPO 法人運営、団体の会計、助成金獲得や効果的な広報、他との連携等様々な相談があり、これら一つ一つに真摯に対応しましたが、同時にスタッフの知識や能力の向上という点も課題の一つです。今後もスキルアップに努めるために、研修や研究をしていきます。
今年度は例年よりも多くの専門書籍を購入し、NPO 支援組織としての資料の充実を図りましたが、まだまだ十分ではないため、引き続き NPO 活動の図書館機能を目指して資料の充実を計画していきます。
また、3 年度は相談をきっかけとして登録してくださる団体も例年より多くあり、他団体との連携につなげるなど、センターのミッションの一つである「つなげる」「連携」にも貢献できました。

【３】はちおうじ志民塾（八王子市からの委託事業）

はちおうじ志民塾第13期
　実施期間：令和3年10月2日～令和4年2月19日
　受講生：17名
講座回数：全13回
テーマ：①入塾式　②八王子を知る（八王子市の概要・活動への支援）地域への第1歩
　③地域の課題を解決する　④地域を育む活動1（NPO 法人小津倶楽部）
　⑤自分を知る（人生の棚おろし）⑥地域を育む活動2（NPO 団体、ボランティア団体、町会自治会）
　⑦八王子のまちを知る（くちコミ隊とのまちあるき）　⑧活動の情報発信（SNS の活用）
　⑨地域課題を解決する（卒塾発表に向けてフィールドワーク）
　⑩市民活動への支援（ゆめおりファンド、創業支援など）
　⑪セカンドライフを企画する～自らの海図づくり～　⑫卒塾発表　⑬卒塾式
地域で活躍、活動する担い手を育成する「はちおうじ志民塾」は、2月に第13期の塾生17名が卒塾し、志民塾卒塾生は総勢275名になりました。今後の地域での活躍が益々期待されます。
第13期の志民塾は、新型コロナの影響で、無事開催できるかどうかの懸念もありましたが、例年より1か月遅れの10月開講、可能な講座を ZOOM 併用にするなど、2月の卒塾までの5か月間で全13回の講座を実施することができました。ただし、感染予防対策には十分に配慮しました。また、2年度に続き、塾生募集を兼ねてのプレ志民塾が開催出来なかったことは、志民塾の周知の観点からも残念でした。
受講生はグループに分かれてグループワークをしたり、自主的に団体を訪問見学したり、卒塾発表に向けての話し合いを重ねたりと沢山の活動をこなし、その間に培われた仲間同士の繋がり、絆も志民塾受講生の宝物になります。
卒塾生たちは八王子の地域活動の担い手として大きな力になっています。OB のなかには卒塾後に協議会の会員や理事となり活動する方や支援センターのスタッフとして活躍する方も多くいます。
今後も協議会は卒塾生たちの活動を支援していきます。
【課題と評価】
・学びの内容について
　13期を終了してこの12年間の卒塾生は275名となりました。前期・後期に分かれていたカリキュラムを

第 8 期からは通期にしてスケジュールも一本化しました。その結果、学び易くなったという評価がある一方で、基礎的な内容が多くなり、専門性については物足りないとの声も聞かれます。

今後のカリキュラムの改定については受講生からのアンケート結果を参考にしながら、市とも協議を続けていきます。

・新型コロナの影響

今期は、新型コロナの影響で、例年よりも 1 か月遅れの10月開講全13回の講座と12期に比べて3回講座数の少ない開催となりました。また ZOOM を併用しての講座も開催しました。しかし ZOOM を利用する受講生はほとんどいませんでした。4年度もコロナの状況は不確定ですので、柔軟な対応が必要とされることと思います。

・今後の卒塾生の動向調査とフォロー

志民塾開始から13年が経ちましたが、卒塾生達がどのような活動をしているかの把握が十分ではありません。今後は卒塾生の活動動向調査や、活動の場の提供、紹介にも一層力を入れて、卒塾後のフォローアップ体制も整えていかなければなりません。

【４】協議会自主事業

1. 総務部・事務局

(1)会員管理

令和3年度の正会員数は、右欄に示すように減少しています。

新規会員は、29件ありましたが、コロナ禍で活動ができない、また、高齢のため活動ができないという団体正会員、個人正会員、賛助会員、協力会員が退会し、団体会員⇔個人会員の移動もありました。

前年度に引き続き会費納入の案内をするとともに、現在の活動の様子を聞き、無理のない活動のサポートをしました。

会員数の推移

	R2年度末	R3年度末
団体正会員	68	67
個人正会員	50	46
賛助会員	49	38
協力会員	31	31
合 計	198	182

(2)新年会員交流パーティー

令和4年1月23日(日)14:00より　会場:いちょうホール展示室にて開催しました。

ただし、コロナ禍のため、会場出席者は原則関係者のみとし、第 1 部の式典のみを開催し第 2 部に予定していたシンポジウム「持続可能な共生のまちづくり～2040 年の八王子～」はオンラインでの後日開催(2 月 11 日)となりました。

第1部　八王子市民活動協議会表彰式典

・10 年在籍会員への感謝状贈呈 (1 団体と5個人)

・ゆめおりファンド認証盾授与　　(3団体)

【課題と評価】

コロナ禍において予定通りにいかない1年でしたが、多くのサポートスタッフの協力のおかげで乗り切ることができました。会員管理の面では、会員が高齢化にともない減少傾向にあります。若い世代への協議会の存在意義を発信し、退会者をなくすとともに新規会員を増員するよう工夫します。

２.広報部

(1)協議会だより

・発行の概要は以下の通り。

発行	発 行 日	主 な 内 容
96 号	令和 3 年 4 月 1 日	第 12 期志民塾卒塾式 最後のオトパ内容紹介
97 号	令和 3 年 6 月 1 日	令和 3 年度事業計画 通常総会報告
98 号	令和 3 年 8 月 1 日	東京都女性・若者・シニア創業支援事業 第 13 期志民塾受講生募集
99 号	令和 3 年 10 月 1 日	NPO フェスティバル予告 「私の地元応援ファンド」助成団体紹介
100 号	令和 3 年 12 月 1 日	協議会だより 100 号記念特集～100 号の歩み
101 号	令和 4 年 2 月 1 日	令和 4 年新年挨拶と記念式典 第 1 回地域デビューパーティー802 参加者募集

(2)ホームページ管理

・協議会の適切な情報が得られるホームページづくりを念頭に置き更新しました。

【課題と評価】

・ホームページの更新が遅くなったり、過去の古い情報がそのまま残っていたりと、ホームページの見やすさに課題がありました。イベント告知・報告をよりタイムリーにするためにホームページ管理を強化するとともに、アクセス数を増やすための工夫も引き続き取り組んでいきます。

３． 交流推進部

(1) 地域デビューパーティー802

・第1回となったチデパ802はオトパを継承して多世代への広がりとコロナ禍での開催を考慮し、リアルとオンライン併用のハイブリッド形式での開催としました。3年ぶりのリアル開催で出展団体も参加した市民も、活発な交流がみられ、第1回目にふさわしい活気あふれる会となりました。

・出展団体は47（初参加20団体）、参加者は一般参加者115名（ズーム6名を含む）、出展団体関係者94名、実行委員24名総勢233名でした。

・熱気のこもった会場のあちこちで参加者との交流が見られ、市民活動への期待を感じる会となりました。

【課題と評価】

・動画上映した11階ギャラリーホールへの集客が少なかったのは、同じフロアでなかった事、対面での情報収集に十分満足できた事が考えられます。

・初めて導入したコンシェルジュ制度、ズームインタビューは今後も継続するように努めます。

・小宮位之講師の知名度、地域活動への熱量が集客と会場の雰囲気を盛り上げる要因となったと考えられます。

(2) 八王子いちょう祭り（わくわく広場）

・いちょう祭り祭典委員会主催のいちょう祭りは、縮小開催となった為、わくわく広場は中止しました。

(3)その他

・支援センター事業の NPO フェスティバルに協議会も実行委員で参加し、全体構成作成や当日の運営などサポートしました。

４．地域連携ネットワーク部

(1)「活き生きハンドブック」は、ホームページを通じてデータを公開し、訂正依頼のあった団体には都度訂正を行いました。

(2)八王子自治研究センターと共催で開催予定の、新春シンポジウム（第 13回共助のまちづくりシンポジウム）「持続可能な共生のまちづくり～2040 年の八王子～」については、新型コロナウィルス感染症まん延防止等重点措置期間となったため延期とし、改めて2月11日にオンライン（ZOOM）のみで開催されました。「はちおうじ未来デザイン2040（素案）」について、講師の八王子市未来デザイン室主幹から素案策定に至るプロセス、現状認識、素案の概要、策定に向けた思いを語っていただきました。その後の意見交換では、パブリックコメント募集中の「はちおうじ未来デザイン2040（素案）」について、講師や参加者同士で質疑応答・対話をしていきました。

(3)明治安田生命相互保険会社高尾営業所からの寄付による、市民団体への助成事業は令和2年度に引き続き、令和3年度も明治安田生命保険相互会社の「私の地元応援プロジェクト」とのコラボで、いただいた寄付金を公募して選出した団体に助成する「私の地元応援ファンド」を実施しました。

(4)自分の得意な分野で地域で支えあうことを目指すための居場所づくり「ゆめおりハウス」構想をまとめ、実現に向けて準備を検討しました。その過程で企業との連携も図りました。

【課題と評価】

(1)活き生きハンドブックについては、NPO ハンドブックとの競合もあるため、今後も継続するかは検討課題です。

(2)第 13回共助のまちづくりシンポジウム「持続可能な共生のまちづくり～2040 年の八王子～」については、オンラインの開催にも関わらず、関係者を除く参加者が21名であり、比較的、多くの方々に参加していただきました。人口減少を見据えた 2040 年に向けた八王子市のまちづくりについて、忌憚のない意見・提案 が出て、大変有意義な場となり、参加者の満足度の高いシンポジウムでした。

(3)「私の地元応援ファンド」は活動資金に窮している小さな団体からは、活動の支援になったと喜ばれました。今後も企業との連携による、団体支援事業（八王子市民活動助成金）を行っていきたいと思います。

(4)「ゆめおりハウス」構想は助成金や多くの企業を巻き込むことにもチャレンジしながら準備をすすめていきたいと思います。

５．女性・若者・シニア創業サポート事業（女若シ創業サポート事業と略す）

今年度はオンラインを有効に活用して年間8回のセミナーを時流にあったテーマで開催しました。東京都が地域に根差す創業を支援する制度であるこの事業は、地域で活動する市民や団体をサポートし、いきいきと活動してもらうことで地域が活性化し発展することに寄与したいとする当協議会の目的に合致するものであるため、2016年からこの事業の地域アドバイザーを務めています。地域に根差した創業から地域が活性化することを目指して3年度も取り組みました。

令和3年度実績としては、コロナ禍において接触を制限されたなかで、セミナー開催8回、個別相談6件、事業評価面談4件、ハンズオン（伴走支援）3件を行いました。

＊セミナー8回の明細は次の通りです。

	実施日	講師	セミナー内容
1	令和 3 年 9 月 12 日	山形 ・千種	女性創業の秘訣 無料でできる DX
2	令和 3 年 9 月 19 日	上田 ・千種	創業における事業計画作成法 無料 DX マーケティング
3	令和 3 年 10 月 19 日	宇田川 ・千種	創業の心得1＋1＝3＋αの実現 無料 DX 活用
4	令和 3 年 12 月 7 日	古川 ・池田	小規模飲食店の起業を 成功に導く秘訣伝授
5	令和 3 年 12 月 21 日	上田 ・千種	ちょこっと創業 創業における DX 活用
6	令和 4 年 2 月 8 日	鮫島 ・千種	プチ創業を持続可能な成功に プチ創業の DX 活用
7	令和 4 年 2 月 15 日	鮫島 ・千種	プチ創業の利益を有効に 事業計画書作成
8	令和 4 年 3 月 1 日	大久保 ・千種	DX を活用したキラッと光る プチ創業のブランディング

【課題と評価】

多くの活動がコロナ禍で制限される中、すべてのセミナーをオンライン開催するなど、コロナ禍の厳しい状況のもとで、ほぼ目標どおりの成果をあげることができました。地域活性化のために、地域に根差した人たちと一緒に成長できる持続的な創業をサポートできるように、これからもこの事業に取り組んでいきます。

６．政策研究企画部

令和3年度は、学生の市民参加の促進のため、大学生プロボノとコラボしてポスター・チラシの作成をお願いし、大学および大学生との協働を図りました。主に「女性・若者・シニア創業サポート」事業のセミナーのチラシは8件、オトパからリニューアルした「第1回みんなの地域デビューパーティー802」のチラシも担当してもらいました。

また、支援センター事業ではありますが、NPO フェスティバルの映像・音響を東京工科大学メディア学部の学生とコラボできたことは、若い世代、大学生の市民活動、地域活動参加増進の一助になったと思います。

【課題と評価】

政策研究企画部としてのアイデアソン的なイベントは企画できましたが、開催までは至りませんでした。また、コロナ禍の 2 年間で育てた、大学生のプロボノ、大学生の地域活性化への参加協力という面では、場を提供し多くの実績をあげることができました。今後、大学コンソーシアムとの連携を強化し、多くの大学、大学生に八王子のまちづくりへの参加の場を提供していく予定です。

令和4年度は本来の政策研究企画部の活動である、調査研究および新規事業開発、そして有望な事業については助成金申請も積極的に行い、さらに20周年を迎える協議会のビジョン「中長期計画」策定にも着手していく予定です。

以上